

なんぷう

2012年12月20日
第21号



平成24年11月23日(金)第14回県立日南病院祭の様様です

目 次

■最近の嬉しいニュース	1
■診療随想	2
■特集 縁の下の力持ちの人々(院内の主な委託業者の方々)	
警備業務・サプライセンター	3
清掃業務・栄養管理科	4
中央監視業務	5
医事担当業務	6
■院内トピックス DMAT広域搬送訓練について	7
■平成23年度決算について	8
■医療連携コーナー 「がん」相談支援センター	9
■みなさんのご意見コーナー	10
■外来診療日程表	11

日本医療機能評価機構(一般病院)認定病院

県立日南病院

〒887-0013 宮崎県日南市木山1丁目9番5号

TEL 0987-23-3111

FAX 0987-23-5142

<http://www.pref-hp.nichinan.miyazaki.jp/>

Eメール: nichinan-hp@pref.miyazaki.lg.jp

最近の嬉しいニュース



病院長

鬼塚 敏 男

今年の4月1日から県立日南病院長を拝命しました。そのことについては、病院のホームページに新任の挨拶として掲載しておりますのでご覧ください。時の経つのは早いもので、病院長に就任してから既に8ヶ月も経過しましたが、この間、頭から離れなかったことは、当病院の医師不足を何とか解消できないだろうか、ということでした。大学病院にも医師の派遣依頼についてお願いしておりますが、この問題はまだ解決に至っておりません。しかしながら、医師不足を改善するであろう嬉しいニュースが、最近、舞い込んできました。

第1の嬉しいニュースは、来年の4月1日から宮崎大学医学部と県が連携し、宮崎大学地域総合医育成サテライトセンターが、県立日南病院に設置されることになり、宮崎大学から指導医3名（うち1名は10月から勤務中）が当病院に派遣されることになったことです。このセンターの役割は、急速な高齢化の進行に伴う今後の医療ニーズに適切に対応していくために、一定の専門分野にとらわれることなく、幅広く診療を行う総合的な診療能力を有し、地域医療に貢献する医師、いわゆる地域総合医を育成することにあります。指導医が大学卒業後3～4年目の総合医を志望する医師に対して2年間、直接指導することになっています。総合医の育成後は、宮崎県の地域の医療機関への医師の確保が可能となり、地域医療の崩壊に歯止めがかかる可能性がありますし、当病院にとっても医師の増加により、医師の負担軽減、および経営改善の契機になるものと大いに期待しているところです。私共は、この総合医の育成を全面的にサポートしていきたいと考えています。

第2の嬉しいニュースは、来年4月1日から歯科口腔外科が当病院に新設されることになったことです。宮崎大学歯科口腔外科から歯科医師1人が派遣され、看護師、歯科衛生

士を配置し、地域の診療機能の充実を図るとともに、地域内の医療機関からの紹介患者を対象に、外来診療を行い、また、入院患者に対しては、必要な歯科治療や口腔ケアを実施することで、高齢者に多い誤嚥性肺炎などのリスクを減少させる効果を期待しているところです。地域内の一般歯科医院では対応困難であった患者が、地域内で必要な治療が受けられるようになり、患者の負担軽減も図られるものと考えております。

第3の嬉しいニュースは、県医療計画の素案として、県南地区に新たに「こども医療圏」が設定されたことです。平成20年3月に二次医療圏を超えた広域での小児医療圏の構築を図るため、3つの「こども医療圏」が設定されていたのですが、最近、小児科医師数はやや増加傾向にあり、小児医療体制の更なる充実を図るためには、周産期医療との有機的な連携が必要であることから、周産期医療圏と同じ県北地区、県央地区、県西地区、および県南地区の4つの「こども医療圏」の設定が望ましく、県南地区は当病院に地域振興小児科（二次救急）が、新たに設置される見通しで、県南地区の小児医療体制の充実や、小児救急医療体制の強化に取り組んでいく方針が示されたことは、大変喜ばしく思います。このことは、県南地区において、小児医療のより安定的な継続ができるものと期待をしているところでございます。

最近、当病院にとって、このような嬉しいニュースがありましたが、マンパワーの増強と、それに伴う病院機能を充実させることによって、当病院が南那珂医療圏における中核病院として、今まで以上に、安心・安全な医療を提供し、患者さんに信頼され、満足していただける病院になるものと考えております。今後とも、職員とともに、より良い病院づくりに邁進したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

診療随想（前立腺の話）

泌尿器科 山下 康 洋

私が日南病院に赴任させていただいてから早いもので約8ヶ月が経ちました。今回は男性特有の臓器である前立腺（ぜんりつせん）について少し話してみたいと思います。

前立腺は膀胱の出口にあって真ん中を尿道がとおり、栗の実の大きさ。精液の一部となる前立腺液を分泌する。加齢と共に前立腺は本来萎縮して小さくなるが、人によってはこういうわけが増殖して大きくなる。これが前立腺肥大症です。肥大した前立腺は尿道を圧迫する。これが排尿症状（尿の勢いが弱くなった、出始めるまでに時間がかかる、出始めてから終わるまでに時間がかかる、尿が残っている感じがする など）を引き起こします。時として尿が全く出なくなり（尿閉）病院に駆け込む羽目になったりもする。当院にも尿閉のため駆け込んで来られる患者さんがポツポツといらっしゃる。尿閉とまではいなくても排尿症状を自覚されている方は大勢いると思います。しかし年のせいだと半ばあきらめて病院を受診していない人のほうが病院を受診されている人より多いでしょう。

前立腺肥大症に対する診察は、自覚症状の確認と残尿のチェックや尿流測定（尿の勢いの計測）・肥大した前立腺サイズの計測等になります。それらの結果を見て前立腺肥大症と診断し治療法を決めていきます。ひどく苦痛を伴うような検査はありませんので安心して受診していただくと良いと思います。

前立腺肥大症の治療は薬による保存的治療と手術による外科的治療の方法があります。大部分のかたは薬による治療で症状の緩和が期待できます。最もよく使用される薬はαブロッカーと呼ばれる前立腺による尿道の圧迫を緩和させる薬です。この薬は即効性があり

服用開始すると速やかに尿流を改善してくれます。副作用（立ちくらみなど）が出る人もいますが多数の人は問題なく使用できて安全性の高い薬です。即効性はありませんがデュタステリドと呼ばれる肥大した前立腺を小さくする薬も出てきました。

薬による治療で症状の軽減が不十分であったり残尿が多くて排尿効率が悪い患者さんは手術による治療を検討することになります。手術は尿道から内視鏡を挿入して肥大した前立腺を切除していきます。平均すると大体1時間半くらいの手術になります。最近はレーザーを使った新しい手術方法も行われるようになりました（出血が少なくなるメリットがある）。残念ながら日南病院では機器がなく行うことができませんが、肥大が著明で手術が必要な症例はレーザーによる治療可能な施設に紹介しています。

今回は前立腺肥大症について書きました。尿の悩みについては気軽に泌尿器科に相談してもらえると良いと思います。

症状をチェックしてみましょう！

月 日 ()

排尿についてご自身の感じる症状と程度、およびその状態に 対する満足度は、診断・治療を行う上で重要です。この1か月の様子について、あてはまる数値（点数）に○をつき、受診の際に担当医にご提示ください。

● 自覚症状について

どれくらい割合で次のような症状がもたらしたか	まったくない (点数に1回未満)	あまりない (点数に1回未満)	たまにある (点数に1回未満)	ときどきある (点数に1回未満)	しばしばある (点数に1回以上)	ほとんどいつも
おしっこをした後にまだ残っている感じがする	0	1	2	3	4	5
おしっこをした後時間内にもう一度しなくてはならないことがある	0	1	2	3	4	5
おしっこをしている間に何度も尿切れることがある	0	1	2	3	4	5
おしっこを我慢するのが難しいことがある	0	1	2	3	4	5
おしっこの勢いが弱いことがある	0	1	2	3	4	5
おしっこの時に急に力を入れることがある	0	1	2	3	4	5
夜寝てから起きるまで、何回かおしっこのために起きる	0回	1回	2回	3回	4回	5回以上
	0	1	2	3	4	5
○をつけた数値を合計してください。						合計 点

● 排尿状態に対する満足度について

	とても満足	満足	ほぼ満足	なんともいえない	やや不満	不満	とても不満
現在の「おしっこ」の状態が、このまま変わらずに続くとしたらどう思いますか	0	1	2	3	4	5	6

警備業務

常駐

建物及び附属施設に収容された備品等についての火災・盗難等の予防及び入院患者・病院職員等の安全確保が主な業務です（常時3人体制でやっています）

1. 院内外巡視業務

各施設の施錠点検及び巡回を行っています。夜勤交代時には看護師宿舎までの通路、職員駐車場においては厳重な巡視を行っています。

2. 出入口の開閉

正面玄関及び北出口は平日、7時30分に開け18時に閉めています。

時間外出入口（東玄関）の開閉業務

3. 時間外電話交換業務（窓口）

電話対応については出来るだけ親切丁寧を心がけています。

病状等の問い合わせについては当直看護師又は当直医に対応して頂いております。

来院者の案内、見舞い客からの照会については医事システム画面で確認して案内しています。

時間外での郵便物、電報、拾得物の取り扱いの対応

時間外での電報の打電対応

時間外での薬局、サプライセンターの立合入室

時間外での緊急用品の販売

時間外緊急手術等でのドクター、看護師等の呼び出し又ミニカルテの取り出し業務

霊安室、解剖室の開閉業務

各施設の鍵貸出管理業務

午後8時以降の来院者に時間外受付簿に記入して頂いたり朝7時30分に外来患者への診察再来機番号札の出し入れをしています。

その他各病院からの要請事項に対応しています。

暴力迷惑行為発生時の対応

窓口での接遇に特に注意しながら、個人情報保護の重要性を認識しながら業務しています。

駐車場管理

午前8時から午後3時まで駐車場の管理がおもな業務です。

1. 外来駐車場、職員駐車場の整理

駐車場に出入りする外来患者、入院患者の関係者及び職員の車両の誘導及び整理をしています。

所定の位置以外に駐車している車両の駐車移動要請や駐車違反車両の排除。

2. その他

資材等納入業者用車両の駐車指導及び整理。

正面玄関における車両の整理誘導及び通行者の安全確保。

駐車場内での緊急事態が発生した場合、臨機措置をとる事があります。その場合他の車両の誘導等が出来ない場合もありますのでご了承ください。

サプライセンター

サプライセンターは、10名（常勤3名、パート7名）のスタッフで稼働しています。

主な業務内容は、全病棟（外来含む）の診療材料の供給とセンター内での物品管理です。部署での必要な物品を、業者へ発注し入荷したものを搬送します。よく出る物品に関してはサプライ在庫管理とし、早急に対処できるようにしています。

また、月に2回の一般消耗品搬送もあり、物品全般の管理を行っていることとなります。他にも、薬品、検体を決められた時間に搬送します。

現在、サプライで取り組んでいることが2つあります。

まず、1つは、部署と協力した定数の見直しです。

以前は使用頻度が高く定数が多く設定していた物品でも、頻度が低くなってもそのままの定数で設定されていたため、使用されなくなった物品が期限切れをおこすことは少なくありませんでした。その為、部署での廃棄金額が上がり問題になっていましたが、各病棟にサプライ担当者を決め、病棟の物品担当者と一緒に見直しを行うようにしました。それにより、病院全体での廃棄金額と使用金額を落とすことができました。これは師長をはじめとする皆様の協力があり実行できました。

もう1つは、期限切れのチェックです。

部署にある物品の期限切れをおこさぬように、サプライが物品の期限を把握し、病棟の物品が期限切れをおこす前にサプライの物品と交換しています。毎月外来の救急カート（第一金曜日）のチェックも行っています。期限切れ間近の物品に関しては、病棟同様サプライの物品と交換し、補充しています。備蓄倉庫の物品管理も（本年度より）行い、物品変更の際は、従来品と変更品の交換を行っています。院内同様に物品の期限を確認し棚配置し管理しています。

これからも、皆様の協力の下、安心して円滑に物品供給ができるよう努めて参ります。



清掃業務

病院が現在地になって、15年になると思っています。広い病院で位置を覚えるのも大変でした。

開始から業務に付いている人も数名残っています。清掃業務と一口に言っても奥の深いものだと思います。病棟では、患者様が浴室を使用される前に、清掃を済ませ、ナースセンターでは、看護師さんが少ない時間に、邪魔にならないようにと朝早く済ませるようにしています。また、トイレ、病室廊下も、毎日の作業になります。

曜日によっては清掃場所が異なりますが、清潔区域の手術、ICU、透析は、埃、雑菌に気をつけながら、宿直室、仮眠室のシーツ交換も、毎日行っております。また、病棟によっては、感染室があり、自分の体を守るのも大事ですので、しっかりマニュアルに基づいて行っています。逆感染の入室の時は、菌を持ち込まないように努めています。

週1回の清掃は、1・2階の診察室、検査室、管理関係、週2回が、X線、内視鏡、放射線関係、リハビリは週3回行い、給食が毎日、残飯回収2回、病棟から出るゴミも1日3回、外来が1回収に廻っております。1階エントランス、1・2階の待合室も毎日です。

待合室の椅子拭き、車椅子の清拭など、ペーパータオル、トイレベンザ除菌クリーナーの補充など、数え切れないほどの仕事を毎日追いかけております。

これからも、縁の下の力持ちとなって、クレームの出ない清掃に取り組んでいきます。



栄養管理科

(落 合 宏 美)

私達は栄養管理科にて、栄養士、調理師、洗浄担当で毎日の患者様の食事に関わる業務を行っています。

主な業務として患者様の食事の献立、材料仕入れ、調理、食器洗浄と乳幼児のミルクも担当しています。

私達は患者様の3食すべてを担当していますので、年中無休で早朝から最後の夕食の食器の回収まで日々がんばっています。

患者様の食事ということで、普段私達が食べている食事とは違って病院食ということで、病院食には大きく分けて一般食と特別食とありますが、患者様の症状によりいろいろと食事に制限があり、食事を選べないということもあり、余計においしいと言われる食事を作らないといけないと思っています。

ある程度、症状の軽い方は週に3回、選択食という形で朝食、昼食を選べる食事もあります。

私達は普段患者様と接することはほとんどないのですが、定期的に病棟訪問という形で栄養士と調理師で病棟に上がり、ご意見を伺っています。

患者様からは「毎日おいしくいただいています」といううれしいお言葉もあれば、時には厳しいご意見もあります。でも、そういうご意見を大事にして、今後に生かしていきたいと思っています。

患者様の立場になり、安心、安全で患者様に喜んでいただけるような食事を今後も作っていきたいと思っています。



中央監視業務

(中央監視室主任 信 時 浩 明)

中央監視業務とは、当院の場合、「電気、空調、ボイラー、給排水設備等の安定かつ効率的な運転を行うことにより、諸設備が十分に機能を発揮し、かつ、快適な病院環境を創ることを目的とする。」となっています。

大きく分けると、次の3つに大別することができます。

1. 諸設備運転監視業務

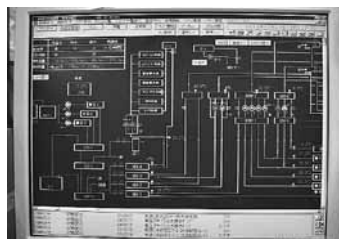
中央監視室には、電気、熱源、給湯を含む給排水設備及び空調をモニタリングできる装置(写真①)があり、24時間監視し、コントロールしています。文字通り、中央で監視しているわけです。

なお、ボイラーについては、専任担当者が、現場で保守管理に当たっています。

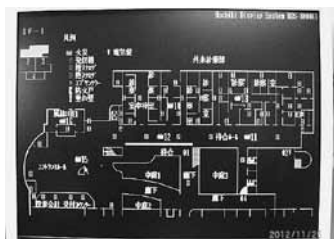
2. 防災業務

院内には、火災感知器が約1,100個あり、何らかの異常があれば、中央監視室内の防災監視盤(写真②)に表示され、現場確認、通報、初期消火、避難誘導などの初動体制に入ります。なおこれらは、ほとんどの場合、現場職員との共同協調しての業務となります。

近年、この業務は、防火から地震などその他の災害に対応した幅広い業務遂行能力を必要とされ、そのため、東日本大震災を、対岸の火事とせず、あらゆる情報を貪欲に収集していこうとしているところです。



写真①
熱源監視画面



写真②
火災感知器監視画面

3. 点検・修理・営繕その他

業務の中で、一番のウエイトを占め、一番現場に即した業務です。

毎日の点検は、絶対に必要なものです。中央監視といえども、各現場を巡回し現場を確認することは、非常に重要なことです。何かおかしいと思ったら必ず現場を確認する。設備を管理する者にとって一番大切なことです。

院内の巡回は毎朝、熱源・電気・給排水その他の設備機器については定期的に点検を実施し保守に努めています。

また、現場からの修理依頼への対応では、緊急性のある場合には、立地的なこともあり、機器メーカー等が早急な対応が困難な場合もあり、メーカーと直接連絡を取り、対応することもあります。技術的にある程度のレベルを維持しメーカーから信頼を得、適確なアドバイスと情報を得られるよう今後も努めたいと思っています。

営繕では、市販では調達困難な建具等の製作を行っています。

近頃は、パソコン及びネットに関するトラブルも増えてきています。趣味の範囲でしかなかったパソコンのトラブルには、四苦八苦しています。解決に多少時間がかかることもあるかと思いますが、長い目で見てやってください・・・お願いします。

中央監視業務は、以上です。

病院にとって中央監視員は、メディカル及びコメディカルの皆さんと違って、黒子です。その黒子の一番の願いは、当たり前が当たり前であることです。普通に電気が使え、普通に水やお湯が使え、快適に病院環境を保つこと。機器の故障も点検時に事前に察知し対応し、病院業務への影響を最小又は無くすることが自分たちの理想であり目標です。

完璧ではありませんが、今後も、この目標に向かって努力してまいります。

医事担当業務

病院の中には多くの職場があり、それぞれに与えられた役目を果たし、職場が歯車のようにかみ合うことにより組織が動いています。医事部門は、診療の補助的な役目を果たしながら、医事に関わる全ての知識を総合して病院活動を円滑に進めるための潤滑油的な存在です。患者様へのサポートから受付・会計業務まで、病院における医事部門の業務は幅広い分野にわたっています。

医事担当業務のご紹介（一部抜粋）

①受付業務

患者様と最初に接するところで、「病院の顔」ともいえる部署です。業務を迅速・的確にこなすことだけではなく、苦痛と不安を抱いて来院する患者様に、常に思いやりの気持ちをもって、日々業務に取り組んでいます。



②会計業務

カルテや診療内容、投与した薬などを、会計システムなどのコンピュータに入力します。医療の専門用語や知識を駆使し、正確に入力する仕事です。入力したデータは診察料金請求のベースになります。

③診療報酬請求業務

診療行為を料金化するために「診療報酬明細書（レセプト）」を作成します。レセプトを作成することにより、診療費のうち自己負担額を除いた部分を国や健康保険組合に請求することができます。

④フロアマネージャー

フロアマネージャーは、患者様をはじめ来院者が快適な時間を院内で過ごすことができるよう接遇に特化した、おもてなしのプロとして活躍しています。

DMAT 広域搬送訓練について

ICU 江 藤 喜 樹

平成 24 年 9 月 1 日の防災の日に、新田原基地にて DMAT の全国一斉の広域搬送訓練に参加しました。

南海トラフ大地震の発災により、マグニチュード 9 クラスの地震が発生し最大震度 7 を記録。それにより高知県、徳島県が全滅すると想定し、被災地から全国へ被災者を搬送するという訓練でした。陸路が全滅しているため、搬送元となるのは四国南方の海上船艦「いせ」からの搬送でした。

訓練の流れは、午前 10 時に地震発生、40 分後に津波襲来とし、日南 DMAT（医師 1 名、看護師 5 名、業務調整員 1 名、計 7 名）として 13 時に新田原基地に到着。その後基地内で SCU（Staging Care Unit）と呼ばれる臨時の医療拠点を立ち上げ、救護活動を行うというものでした。実際の訓練では SCU を立ち上げて、4 人ずつ運ばれてくる被災者を各病院 DMAT で安定化させ、近隣の地域医療病院に搬送しました。参集した DMAT で役割分担されており、私は医療資機材管理と搬送補助を担当させていただきました。



DMAT は臨時で設置された場所で、限られた資機材で活動を行っていきます。今回の訓練では、実際に各 DMAT が持参した資機材では安定化は困難と判断し、物資支援を要求しましたが時間に間に合わず十分な治療が施されなかったという事態がありました。当院での具体的な不足物品としては携帯用心電図モニター、携帯用酸素ボンベ、携帯用輸液ポンプ、携帯用簡易ベッドでしたが、他のほとんどの施設でも同様の不足が見受けられました。今回のような受入れ側での SCU 活動は、被災者到着までにある程度の時間の余裕があるため、周辺医療施設の協力をもらい、できる限りの支援をしていただく必要があります。また、各施設でも十分な装備を揃える必要があると感じました。



今回の訓練は、被災地外であり地元での受け入れ訓練だったため、今まで行ってきた被災地ど真ん中での活動や土地勘のない場所での活動に比べて、搬入されるまでに時間的な余裕があり、周辺の医療資源の把握が容易な場所での活動ができました。簡単にいえば「ホーム」での活動に近い印象でした。その中で、時間的余裕をどう使うかということを考える訓練にもなり、周辺の医療資源の活用方法を検討する良い機会となりました。

最後に、今年の 8 月 29 日に公表された南海トラフ巨大地震の想定では、宮崎県内の死者は九州で最も多い 4 万 2 千人にもなると発表されています。被災者収容の拠点となる災害拠点病院である当院も津波で浸水する可能性があり、その為県外への搬送が必要になる可能性もあります。このような事態にならないことが一番望ましいですが、県民一人ひとりが万が一の事態に備え、十分イメージしていただくことで、パニックを逃れ多くの人命救助に繋げることができると思います。

平成 23 年度決算について

平成 23 年度の決算は、約 2 億 5,600 万円の赤字となり、前年度と比べて約 1 億 3,500 万円の収支の悪化になりました。

これは、入院患者の減少により、入院収益が減ったこと、各病棟にクラークを配置したこと等により経費が増加したことなどが主な理由です。

当院といたしましては、医師や看護師の確保に全力を挙げるとともに、本来の役割である高度医療の提供と地域の医療機関との連携を図りながら、今後とも、収益の向上、経営改善に努めてまいります。

詳細は次のとおりです。

1 患者の状況

区 分		23 年度決算	22 年度決算	増 減	増減率(%)
入 院	延 患 者 数 (人)	83,428	85,260	△ 1,832	△ 2.1
	新 規 患 者 数 (人)	4,242	4,547	△ 305	△ 6.7
	一 日 平 均 患 者 数 (人)	228	234	△ 6	△ 2.6
	稼 働 病 床 利 用 率 (%)	81.1	83.1	△ 2.0	—
外 来	延 患 者 数 (人)	88,828	85,952	2,876	3.3
	新 規 患 者 数 (人)	10,422	10,362	60	0.6
	一 日 平 均 患 者 数 (人)	364	354	10	2.8

2 収支の状況

区 分		23 年度決算	22 年度決算	増 減	増減率(%)
病 院 事 業 収 益 (千円)		5,594,171	5,660,091	△ 65,920	△ 1.2
	入 院 収 益	3,490,027	3,555,994	△ 65,966	△ 1.9
	外 来 収 益	1,012,814	967,992	44,822	4.6
	一 般 会 計 繰 入 金	985,086	1,029,466	△ 44,380	△ 4.3
	そ の 他 収 益	106,244	106,640	△ 396	△ 0.4
病 院 事 業 費 用 (千円)		5,850,477	5,780,754	69,723	1.2
	給 与 費	2,799,119	2,755,716	43,402	1.6
	材 料 費	1,124,115	1,095,718	28,397	2.6
	経 費	822,728	774,595	48,133	6.2
	減 価 償 却 費	666,185	698,229	△ 32,044	△ 4.6
	そ の 他 費 用	438,330	456,495	△ 18,165	△ 4.0
当 年 度 純 利 益 (千円)		△ 256,306	△ 120,663	△ 135,643	—
(償 却 前 利 益)		458,708	631,730	△ 173,022	—

※四捨五入の関係で内訳と合計が一致しないことがあります。

「がん」相談支援センター ご存知ですか！

がん相談支援センターは、平成 20 年 6 月に開設しています。

当相談支援センターを利用される患者さん、家族の方も少しずつ増えてきています。

昨年の相談件数 = 357 件（延べ件数）は日常生活に関する相談が一番でした。

しかし「がん」の告知を受けた患者数に対しては多くありません。

相談支援センターを案内され来室された方のほとんどが「こんなところが有ったのですね。知りませんでした。」と言われます。

現在のがん治療は「告知」することが一般的となりました。

必要な検査を受け「がん」と確定した段階で医師から患者さん・家族に伝えられます。

「がん」と告知を受けた患者さん、家族はショックが大きく頭の中が真っ白になってしまいます。病期（がんの進行の程度）やこれからの治療方針について説明されても「どうして私が、なにかの間違いなのでは？」「これからどうすれば良いのだろう？」等色々な思いが頭の中をかめぐりやりきれない気持ちになります。

なにをどう話して良いのか分からない・・・

そんな時相談支援センターに寄ってみませんか？

相談員はお気持ちを聞きながら、がんのことやがんの治療について、これからの療養や生活のこと等がんの医療にかかわる悩み・不安・疑問に共に向き合いながら、より良い治療へのお手伝いをさせていただきます。

ご相談は、直接おいでいただく方法と、電話でお話を伺う方法があります。

相談することに抵抗があるかもしれませんが、とにかく一歩進んでみませんか？

相談いただいた内容がご本人の了解なしに他の方に伝えられる事は一切ありません。

安心して相談支援センターを訪ねてください。

* 予約はいりません * 無料です

* 県立日南病院以外で診察、治療を受けている方の相談も可能です。

相談員が在室している時間と場所は以下のとおりです。

場 所 : 正面玄関右奥・院外処方箋 FAX コーナーのとなり
曜 日 : 月曜日～金曜日 （祝日 年末年始は休みます）
時 間 : 午前 9 時 ～ 午後 3 時 50 分
電 話 : 0987-23-3156 （直通）
相談員 : 鈴 木 由美子 （月、火、木）
相談員 : 黒 木 直 子 （水、金）



みなさんのご意見コーナー

当院では、患者さんのより良い医療環境づくりをめざして、患者さんやご家族などの来院者の方からご意見を伺い、それらへの対応を公表しています。ご意見の対応に係る公表は、皆様方との信頼関係を築く上で、大変重要なことと考えていますが、個人を中傷するものや具体的な内容の記述がないものは回答できない場合もあります。

皆様の具体的で、建設的なご意見をお待ちしております。

みなさんのご意見への回答（平成24年6月～24年9月分）

○病院内で気になったことがあります。盗難の放送をされていますが、入院患者としては、すごく不愉快です。患者に泥棒が居るので気をつけろと言われているみたいです。

入院で気が滅入っている中で、このような放送が必要なのでしょうか。放送をされるにしても、もっと気を遣って頂きたいものです。

もしくは、その時で対処されたらどうなのでしょうか。毎日毎日何回も不愉快です。



●盗難防止につきましては、院内放送の他、病棟案内板での注意を促す掲示、及び入院時に病棟への貴重品の持ち込み等の禁止を説明しております。

ご指摘の点につきましては、放送内容の改善を行い、朝と午後の2回の放送を午後1回に変更しました。

不特定多数の方が出入りしている院内で、患者様が盗難被害にあわれることのないよう、注意を促すために、毎日の放送は必要と考えますので、ご理解頂きますよう、よろしくお願いいたします。

○今回、ケガの為に救急外来で診て頂きました。最初は、電話での対応でしたが、親身になって対応して頂けたのでこちらも心が落ち着きました。また、受診した際の対応も丁寧でした。今回のこととは関係のない問題に対してもしっかり話を聞いて頂きました。他にも救急患者さんが居て、忙しそうだったにも関わらず丁寧に対応して頂けたことを嬉しく思っています。



●温かいお言葉を頂き、私達看護師も大変嬉しく思っています。地域の皆様が安心して受診し満足して頂けるような、看護をこれからも続けていきたいと思えます。

ありがとうございました。

①7月から9月にかけて、本当にお世話になりました。○○先生、5階西の看護師さん達、3階東の看護師さん達、いつも笑顔で接してくれて、そして事務では真剣に話を聞いてくれて本当にありがとうございました。お茶を入れてくれる時もわざわざ湯飲みまで洗ってくれて、本当に心より感謝しています。

ありがとうございました。

②警備員の方々は、いつも気持ちよく挨拶をし、帰りには必ず「お疲れ様です」と声をかけて頂き本当に嬉しかったです。本当にありがとうございました。



①退院後の体調はいかがでしょう。この度、私達への感謝のお言葉を頂きありがとうございました。スタッフ一同、とても嬉しく思っています。

2ヶ月という長い入院となり、心配もされたと思いますが、頑張っておられた姿が思い出されます。いつも和やかに私共に接して頂きました。

この心温まるお言葉を励みに頑張ってまいります。

②この度は、このようなお言葉を頂き警備会社を含め、スタッフ一同感謝しております。

これからも来院される皆様方への丁寧な言葉使い、正確で速やかな案内を努めてまいります。

ありがとうございました。

※ここでの掲載は頂いたご意見の一部です。

※皆様からのご意見に対する回答は、院内掲示板または病院ホームページに掲載しています。

外来診療日程表

県立日南病院 平成24年12月

1階

内科	月	火	水	木	金
循環器内科					
内科初診	原	原	原	原	原
循環器内科初診	山口		大窪	西平	
一診	山口			大窪	山口
二診		椎屋		椎屋(午後)	大窪
三診	平塚	平塚			平塚
五診		西		西	西
六診	西平	坂口	西平	西平	坂口
七診	原	原	原	原	原
内視鏡					中島
気管支鏡				平塚	
心エコー検査		○		○	
心カテ検査		○			○
ペースメーカー手術			○		

※内視鏡(金)は宮崎大学医学部の医師による診察

放射線科	月	火	水	木	金
診察		田中		古賀	
検査日	○	○	○	○	○

外科	月	火	水	木	金
一診	市成	帖佐	田代	市成	帖佐
二診	宮原	松田	峯	松田	峯
三診					
手術日	○	○	○		○
透視				○	
内視鏡		○		○	
ストーマ外来	○		○	○	

※外来手術(月曜日の午後)

※ストーマ外来(月・水・木曜日 予約制)

脳神経外科	月	火	水	木	金
再診	齋藤	武石	杉本		齋藤
初診	武石	杉本	武石		杉本
手術日				○	○(午後)

整形外科	月	火	水	木	金
一診	初診	大倉	松岡	松岡	初診
二診	松岡	福田	初診	福田	大倉
手術日	午後	午後		午後	午後

神経内科	月	火	水	木	金
診察				塩見	

精神科 心療内科	現在休診中				
-------------	-------	--	--	--	--

2階

小児科	月	火	水	木	金
一診	山村	山村	山村	山村	山村
二診	原田	原田	原田	原田	原田
検診日		午後2時から			午後2時から

耳鼻咽喉科	月	火	水	木	金
診察	下蘭	下蘭	下蘭	下蘭	下蘭

眼科	月	火	水	木	金
一診	杉田	杉田	杉田	杉田	杉田
二診	日高	日高	日高	日高	日高
検査日		午後	午後		午後
手術日	午後			午後	

泌尿器科	月	火	水	木	金
一診	休診	山下	山下	山下	山下
二診	休診	山崎	山崎	山崎	山崎
手術日	○				

皮膚科	月	火	水	木	金
一診		☆			☆

☆宮崎大学医学部の医師による診察

産婦人科	月	火	水	木	金
一診	川越	川越	川越	川越	川越
二診	西村	山内	西村	山内	西村
手術日		○	○		

編集後記

11月23日に開催しました病院祭には、たくさんの方々に来院いただき、ありがとうございました。

風邪の流行する寒い季節になりました。

うがい、手洗いを励行し、毎日健やかに過ごしていきましょう。

(広報編集委員会)